

検討の観点と内容の特色

検討の観点	内容の特色
観点1 教育基本法・学校教育法への対応	
① 教育基本法・学校教育法の理念をふまえた編集上の配慮	● 教育基本法の第2条「教育の目標」、第3条「生涯学習の理念」、および、学校教育法の第21条「義務教育の目標」、第30条・第49条「生涯学習の基盤・学力の三要素」をふまえた編集になっている。 ● 特に、教育基本法第2条に基づいた教材が全学年に配置されている。 - 第1号 真理を求める態度、豊かな情操と道徳心を養う。(例 1年「少年の日の思い出」、2年「人間は他の星に住むことができるのか」、3年「論語」など) - 第2号 創造性、自主・自立の精神、勤労を重んじる態度を養う。(例 1年「空中ブランコ乗りのキキ」、2年「名づけられた葉」、3年「武器なき『出陣』」など) - 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、主体的に社会に参画する態度を養う。(例 1年「この小さな地球の上で」、2年「自立とは『依存先を増やすこと』」、3年「『文殊の知恵』の時代」など) - 第4号 生命・自然の尊重、環境保全に寄与する態度を養う。(例 1年「クジラの飲み水」、2年「動物園でできること」、3年「フロン規制の物語」など) - 第5号 伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際平和へ寄与する態度を養う。(例 1年「竹取物語」、2年「一〇〇年後の水を守る」、3年「『ありがとう』と言わない重さ」など)
② 知識および技能の習得	● 基礎的・基本的な知識および技能を習得し、習得したことを自覚して、繰り返し活用することで定着するよう、各領域とも重視する観点や学習の方法を明確に示している。 ● 各教材に、情報的的確に捉えて考えを深めるための「思考の方法」、教材の言葉をきっかけに多様な観点から語彙を豊かにする「語彙を豊かに」を設定するなどの工夫を凝らし、基礎的・基本的な知識および技能が確実に習得できるようにしている。
③ 思考力・判断力・表現力等の育成	● 学年の発達段階をふまえ、課題解決的な言語活動を系統的に設定し、思考力・判断力・表現力等を高めることができるようにしている。 ● 読みの方略を学ぶ「読み方を学ぼう」や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に示した「学習のポイント」、「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫を凝らし、汎用的な力を身につけられるようにしている。
④ 学びに向かう力・人間性等の養成	● 確かな目的と見通しをもち、「学び方」を意識しながら学習を進め、学びの成果を実感することで、意欲的に取り組めるよう工夫している。 ● 生徒が取り組みたくなる言語活動や読む意欲を喚起する魅力的な文章教材が豊富に取り上げられており、主体的な学習を促している。(例 1年「竜」、2年「セミロングホームルーム」、3年「坊っちゃん」など) ● 対話や考えの共有などの共同的な言語活動の場を適切に設け、仲間とともに学習の達成感を得て、学ぶ意欲を高められるようにしている。(例 全学年「グループディスカッション」、第6単元「情報を関係づける」など)
⑤ 学習の見通しと振り返りの明確化	● 各教材とも、冒頭に学習目標を示し、末尾に振り返る活動を設けている。見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返ることによって自分の学習を診断・評価して、次の学習に生かすことができるようにしている。 ● 各学年の冒頭に「領域別教材一覧」を設け、1年間の学習の見通しをもつとともに、各教材での「つきたい力」がひとめでわかるようにしている。 ● 各学年の巻末に「『読み方を学ぼう』一覧」を設け、学習した読みの方略を振り返って確かめることができるようにしている。

検討の観点	内容の特色
観点2 学習指導要領への対応	
① 学習指導要領に対応した工夫や配慮	● 学習指導要領の目標と内容がもれなく指導できる教科書になっている。 ● 学習過程の明確化や学習の系統性の重視、言語活動・読書活動の充実などが図られている。 ● 基礎的・基本的な知識および技能の習得と、それらを活用しての思考力・判断力・表現力等の育成に資する工夫を随所に施している。
② 語彙指導の改善・充実	● 各教材に「語彙を豊かに」を設定するとともに、資料編には「語彙の広がり」を配置し、理解できる語句や使える語句の量を増やし、語感を磨くことができるようにしている。 ● 辞書を活用する学習を多数設け、日常的に辞書を引く習慣をつけるとともに、確かな語彙力が身につくよう工夫している。(例 3年「辞書の語釈」、全学年「辞典を活用する」など)
③ 情報の扱い方に関する指導の改善・充実	● 各学年の第6単元に、「情報を関係づける」として、「情報の扱い方」に特化した単元を設けたほか、各教材の学習過程にそって「思考の方法」を位置づけ、教科書全体を通じて「情報の扱い方」を学習できるようにしている。 ● 資料編には、情報リテラシーを高めるための教材を豊富に掲載している。(例 全学年「情報探しの方法」「引用と著作権」など)
④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実	● 和歌・俳句・古文・漢詩・漢文などを幅広く取り上げ、言語文化の継承・発展やその意義を考えることができるよう配慮している。 ● 「読書の広場」では、「古事記」「那須与一」「近世の短詩」(川柳・狂歌など)を取り上げているほか、資料編では、「落語の世界」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」について、豊富な図版とともに親しみやすく紹介している。
⑤ 問題解決的な学習の改善・充実	● 日常生活や社会生活の中から自ら課題を発見し、互いに意見を出し合いながら解決策を考え、課題解決に向けて取り組む、「主体的・対話的で深い学び」に対応した教材が充実している。(例 1年「グループ新聞」、2年「一〇〇年後の水を守る」、3年「課題作文」、全学年第6単元「情報を関係づける」など) ● 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材を中心に、課題解決的な言語活動の中に、情報の収集・整理・発信の方法を具体的に示している。(例 1年「レポート」、2年「論説文」、3年「パブリックスピーキング」など)
⑥ キャリア教育へ対応	● 今までの歩みを振り返ったり、今の自分を見つめたり、将来について考えたりする教材を配置し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力や態度を育てることに配慮している。(例 1年「空中ブランコ乗りのキキ」、2年「自立とは『依存先を増やすこと』」、3年「漢字一字で表現すると」「『文殊の知恵』の時代」など)
⑦ 現代的な課題へ対応	● 急激な社会の変化がもたらす現代の課題(情報・言語・環境・国際理解・平和・人権・少子高齢化・防災・食育など)や、持続可能な開発目標(SDGs)に、社会の構成員として粘り強く取り組む姿勢を養い、積極的に問題解決にあたるために、対話や合意形成などの具体的方法、そのために欠かせない論理的な思考力・判断力・表現力等を育成する教材を配列している。(例 1年「意味と意図」「『みんなでいるから大丈夫』の怖さ」、2年「一〇〇年後の水を守る」「小さな手袋」、3年「希望」「フロン規制の物語」など)
⑧ 教育のICT化への対応	● 「読書の広場」の教材には、「読み方を学ぼう」で学んだ方略を活用する課題が設定され、二次元コードから方略を活用した図解例を閲覧できるようにしている。 ● 古典教材には、他の章段へと読み広げる課題を設定し、二次元コードから他の章段等の原文と現代語訳を閲覧できるようにしている。 ● デジタル教科書・教材は、教科書を立体的に学べるコンテンツや機能を収録している。



検討の観点	内容の特色
観点3 内容・構成の工夫	
① 全体構成・配列の工夫	● 知識および技能を習得する学習と、思考力・判断力・表現力等を育成する学習とが、特定の時期に偏ることなく、バランスよく適切に配分されている。 ● 本編と資料編で構成されており、本編では必修の学習内容を扱い、目次で標準的なカリキュラムを示している。資料編では学習を支えるさまざまな資料を整理して示し、弾力的なカリキュラムマネジメントと、重層的な学習を可能にしている。 ● 本編は、生徒の発達段階や学年の特性、学校生活や行事等、季節感などを考慮しながら、単元の系統性を明確にして、各学年、同じ時期に同じ領域の学習ができるようにすることによって、学びの積み重ねが実感できるようにしている。 ● 領域間の関連を適切に図っており、効果的な学習指導ができるよう工夫している。(例 1年 第7単元、2年 第8単元、3年 第3単元、全学年 第6単元など) ● 資料編は、「情報を活用する」「古典芸能に親しむ」「社会生活に生かす」「参考資料」からなり、情報活用に資する資料、伝統文化に親しむ資料、言語活動に必要な知識などを掲載して、言葉の力、学ぶ力を高められるよう工夫している。
② 分量・配当時数への配慮	● 生徒の発達段階に応じ、各学年の配当時数の中で無理なく学習計画が立てられるよう、適切な分量の教材を配列している。 ● 3学期制・2学期制の両方に対応するよう、配当時数に配慮しながら、単元が構成されている。(3学期制の場合は、1学期が第3単元まで、2学期が第7単元までを標準としている。2学期制の場合は、前期が第5単元までを標準としている。) ● 各教材の文章の長さは、各学年の発達段階や学習内容に即して適切なものが選ばれ、意欲的に学べるよう配慮している。
③ 教材選定の適切さ	● 教科書全体を通して、学習指導要領に示された教材選定の観点をふまえ、学習意欲を喚起するとともに、確かな言葉の力の育成に資する教材を選定している。
④ 生徒の発達段階・学年の特性	● 3年間を通して系統的・段階的に教材を配列し、既習事項を活用しながら、言葉の力が身につけられるようにしている。また、文章構成の仕方や話し合いの仕方、読み方や考え方など、基礎的な重要事項は繰り返して提示するなど、言葉の力の定着のための工夫を凝らしている。 ● 教材で取り上げる話題・題材は、生徒の学校生活や身のまわりの日常生活から、社会生活へと広がるよう配慮している。
⑤ 各教科等の学習・実生活で生きてはたらく力の育成	● 生徒の日常生活や社会生活の課題を取り入れて、学習で身につけた力が実際の場で生かされるように、話題・題材、知識・技能、活動の具体化を図っている。 ● 「学び方」を学ぶことを重視し、他教科の学習や社会生活における言語活動において活用できるよう工夫している。(例 全学年 「グループディスカッション」「読み方を学ぼう」「思考の方法」など)
⑥ 言語活動の充実	● 全領域の教材において、「つけたい力」との関連を明確にして、多様な言語活動を取り上げている。 ● 紹介・説明・提案・議論・案内・報告・創作・編集・論述・批評など、学習指導要領に示された言語活動例を網羅し、全学年において言語活動が充実している。
⑦ 学習指導の系統性と連続性の明確化	● 学習指導の系統性・連続性が、全学年において重視されている。習得と活用を繰り返すことによって、資質・能力を確実に高めることができるよう工夫している。 ● 各学年の単元の系統性が明確になっており、学習が螺旋的・反復的に積み上げられていくことで、資質・能力の定着が図れるようになっている。

検討の観点	内容の特色
⑧ 自学自習への対応	● 学習の見通しと振り返りが明確に位置づけられており、何を学ぶか、何を学んだかを、生徒が実感しやすく、主体的な学習につながるよう工夫している。 ● 何を学ぶか、何を学んだかに加え、どのように学ぶかという「学び方」をわかりやすく示すことで、学ぶ意義を自覚しつつ、自学で活用できるようにしている。(例 全学年 「読み方を学ぼう」「読書の広場」、二次元コード参照先資料など)
⑨ 読書生活・読書活動の充実	● 各学年に「私の読書体験」を掲載し、読書の意義や効用について理解を深め、自ら進んで読書をし、読書をととして人生を豊かにしようとする態度を養えるようにしている。 ● 「読むこと」教材の末尾に「私の本棚」を設け、教材との関連性を明示しながら図書を紹介するとともに、「読書の広場」の「小さな図書館」には、テーマごとに各学年 47 冊の図書を紹介している。 ● 「読書の広場」には、各学年 5 本の多様なジャンルの読書教材を掲載し、主体的に読書に親しむことができるようにしている。 ● 「ブッククラブ」「ビブリオバトル」「ブックトーク」などの多彩な読書活動を配置し、生徒の興味・関心の幅を広げ、知識を深め、読書に取り組む態度が育つよう工夫している。
⑩ 他教科や日常生活との関連	● 他教科や日常の言語生活との連携を図り、幅広い題材についての認識を深め、国語科の学習で習得した言葉の力が他教科等や社会生活などの中で生きてはたらくよう工夫している。(例 全学年 「グループディスカッション」「読み方を学ぼう」「思考の方法」など) 【他教科等との関連】 英 語 1年 「音声のしくみとはたらき」、2年 「文法のまとめ」、3年 「慣用句・ことわざ・故事成語」など 社 会 1年 「レポート」「玄関扉」、2年 「平家物語」「共生社会に関するデータ」、3年 「間の文化」「希望」、全学年 「日本文学名作集」など 理 科 1年 「クジラの飲み水」、2年 「人間は他の星に住むことができるのか」「一〇〇年後の水を守る」、3年 「フロン規制の物語」など 美 術 1年 「故事成語」、2年 「歌舞伎の世界」、3年 「間の文化」「ポスター」など 保健体育 2年 「自立とは『依存先を増やすこと』」「見えないチカラとキセキ」など 技術・家庭 1年 「食感のオノマトペ」、3年 「広告の読み比べ」など 道 徳 1年 「少年の日の思い出」、2年 「走れメロス」、3年 「握手」など 総合的な学習の時間 1年 「グループ新聞」、2年 「情報誌」、3年 「名言集」、全学年 第6単元「情報を関係づける」など
⑪ 地域性への配慮	● 各領域の教材選定において、地域的な偏りが生じないよう配慮し、幅広い題材をバランスよく選定している。 ● 地域の文化に対する関心を高め、その特色を尊重する態度を養えるような教材を選んでいる。(例 1年 「方言と共通語」「古事記」、2年 「大阿蘇」「情報誌」、3年 「サシバ舞う空」「武器なき『出陣』」など)
⑫ 小学校・高校との連携	● 小学校から高校までの学習の系統性や継続性に配慮し、中学校で求められる、社会生活に必要な国語の資質・能力を確実に育成できるようにしている。 ● 1年の最初の物語「竜」は、新入生である1年生の心理に寄り添いつつ、豊かな表現で語られる文章であり、中学校での国語の学習に抵抗を感じることなく、スムーズにスタートできるように配慮している。 ● 1年の最初の「読み方を学ぼう」として設定した「ペンギンの防寒着」は、小学校で学習した説明文の読解の基礎・基本を確認でき、中学校の学習に円滑に接続できるようにしている。 ● 3年には、ものの見方を広げ深め、生き方を考えさせる、高校への橋渡しになるような教材を配置している。(例 3年 「間の文化」「希望」「『文殊の知恵』の時代」「高瀬舟」など)

検討の観点	内容の特色
観点4 領域ごとの内容と特色	
● 話すこと・聞くこと 第6単元 「情報を関係づける」 資料編	● 生徒の学校生活・日常生活・社会生活の中から発達段階に即して話題を選び、目的や場面に応じて適切に話す能力・聞く能力・話し合う能力を育てられるよう、学習を意図的・計画的に組織している。 ● 全学年において、学習指導要領の言語活動例を網羅しており、さらに、生徒の興味・関心を喚起する多彩な言語活動を取り上げて教材化している。(例 ● 「スピーチ」「ブッククラブ」、2年 「プレゼンテーション」「ビブリオバトル」、3年 「パブリックスピーキング」「ブックトーク」、全学年 「グループディスカッション」など) ● 学習活動の手順を明確に示すとともに、「学習のポイント」やテーマ例・スピーチ例・話し合いの例などを示し、ゴールイメージをもつことで、学習に取り組みやすくなるよう工夫している。(例 1年 「スピーチ」、2年 「プレゼンテーション」、3年 「パブリックスピーキング」、全学年 「グループディスカッション」など) ● 国語科における他の学習のみならず、他教科や社会生活に活用できるような話し合いの仕方を取り上げ、「話し合いのこつ」を明示しながら、3学年にわたって系統的に教材を配列している。(例 全学年 「グループディスカッション」) ● 現代社会の課題をテーマに、グラフや図表などのさまざまな情報を読み取り、話し合いをとおして自ら課題を発見し、自分の考えを深めていく教材を設けており、社会の一員として求められる幅広い資質・能力の育成を図っている。(例 1年 「防災に関するデータ」、2年 「共生社会に関するデータ」、3年 「広告の読み比べ」) ● 資料編には、情報の探し方、インタビューの仕方、メモの活用の仕方、話し合いの形式、学習用語辞典、思考の方法など、本編の学習と関連づけて、学ぶ力を高めたり、知識を整理したりできる教材を配列している。
● 書くこと 第6単元 「情報を関係づける」 資料編	● 生徒の日常生活・社会生活・言語生活の中から、発達段階と書く必要性・必然性に即して題材を選び、目的や意図に応じて適切に書く能力を育てるよう工夫している。 ● 全学年において、学習指導要領の言語活動例を網羅しており、さらに、生徒の興味・関心を喚起する多彩な言語活動を取り上げて教材化している。(例 ● 「レポート」「随筆」「行事案内リーフレット」「詩」「グループ新聞」、2年 「手紙・メール」「短歌・俳句」「投稿文」「論説文」「情報誌」、3年 「課題作文」「批評文」「ポスター」「名言集」など) ● 学習活動の手順を明確に示すとともに、「学習のポイント」やテーマ例・作文例・作品例を示し、ゴールイメージをもつことで、学習に取り組みやすくなるよう工夫している。(例 1年 「随筆」「意見文」、2年 「投稿文」「論説文」、3年 「課題作文」「批評文」など) ● 根拠を明確にして考えを述べることや、文章構成を工夫して説得力のある文章を書くことなど、基礎的な重要事項は3学年をとおして繰り返し学習する場を設け、確実な定着を図っている。(例 1年 「意見文」、2年 「論説文」、3年 「課題作文」「批評文」など) ● 学習の過程において、交流の場を適切に設けることで、共同の学びを促しながら、生徒の学習意欲を喚起している。(例 1年 「意見文」、2年 「短歌・俳句」、3年 「課題作文」など) ● 現代社会の課題について、さまざまな情報を関連づけて深めた自分の考えをもとに、それを書いて発信することをとおして、課題解決に向けて取り組む態度を養う教材を設けており、社会の一員として求められる幅広い資質・能力の育成を図っている。(例 1年 「行事案内リーフレット」、2年 「投稿文」、3年 「ポスター」) ● 資料編には、情報の探し方、引用の仕方、メモの活用の仕方、手紙・はがき・メールの書き方、原稿用紙の使い方・推敲の仕方、学習用語辞典、思考の方法など、本編の学習と関連づけて、学ぶ力を高めたり、知識を整理したりできる教材を配列している。

検討の観点	内容の特色
●読むこと 「学びの道しるべ」 「読み方を学ぼう」	●言語や情報、人権、環境、国際理解、平和など、現代の課題に向き合いながら、問いを生みだし、想像力をはたらかせて、人や社会について多角的に考え、豊かな心を育むことのできる教材を配列している。 ●文章構成や論理展開が明快な教材が多く、論理的思考力を高め、説得性をもって表現する力を高めるのに適している。(例 1年「クジラの飲み水」「玄関扉」、2年「人間は他の星に住むことができるのか」「動物園でできること」、3年「間の文化」「フロン規制の物語」など) ●悩みや葛藤、喜怒哀楽を描き、人間や生き方について教室で深く考え合うことのできる名作を豊富に配列している。(例 1年「空中ブランコ乗りのキキ」「少年の日の思い出」「トロッコ」、2年「小さな手袋」「走れメロス」「むさぼり」、3年「握手」「故郷」「坊っちゃん」など) ●「読むこと」教材に配置した「学びの道しるべ」では、丁寧かつ簡潔に学習過程を示している。 ●「学びの道しるべ」の「学びを広げる」では、文章や図表の効果を考える課題、調べたことをまとめて発表する課題、条件をふまえて意見を述べる課題、読み比べる課題など、学力の定着・向上に資する多様で効果的な言語活動を設定している。 ●「読み方を学ぼう」は、「学びの道しるべ」の課題と関連づけ、その教材に適した読みの方略として、「人物相関図」「三角ロジック」「要約」「人物設定」「図表と文章」「例示」「回想」「批判的な読み」「具体と抽象」など、幅広く取り上げている。 ●「読み方を学ぼう」では、文章での簡潔な解説に加え、図解を大きく示し、知識・技能を可視化することによって捉えやすくするとともに、汎用性のある「学び方」として習得できるようにしている。 ●各学年の巻末には、「『読み方を学ぼう』一覧」を付し、学習した読みの方略を繰り返し確認し、他の教材や他教科の学習で「学び方」として活用することをとおして、定着が図れるよう工夫している。
●言葉の特徴や使い方 語彙	●「言葉の特徴や使い方」に関する取り立て教材として、「言葉発見」、「漢字のしくみ」、「文法の窓」＋「文法のまとめ」の3系列をバランスよく配列し、日常の言語生活を豊かにし、言語運用能力を育むことができるようにしている。 ●「言葉発見」「漢字のしくみ」「文法のまとめ」では、練習問題を設け、学んだことをすぐに確認して、確かな知識として定着を図ることができるようにしている。 ●漢字の学習では、「読むこと」教材の中で提出する漢字と、漢字取り立て教材とを組み合わせ、各学年ともバランスよく配当している。 ●各教材に設定している「語彙を豊かに」によって、教材の学習に関連づけながら、多様な語句を身につけ、語感を磨くことができるようにしている。 ●「読むこと」教材の脚注欄には、文中語句の説明のほか、辞書を活用して調べる語句を示すとともに、類義語や対義語を示すことで、語彙を増やしつつ、文脈から語句の意味を推測する力を養えるよう工夫している。 ●資料編「語彙の広がり」では、語句どうしの関係やつながり方に着目した教材を、各学年の学習内容に即して取り上げ、言葉への関心を高め、自ら語彙を増やす態度を養えるようにしている。 ●資料編「辞典を活用する」では、国語辞典・漢和辞典・類語辞典・四字熟語辞典・ウェブ上の辞典など、多様な辞書の活用の仕方を3学年にわたって示している。 ●資料編「学習用語辞典」では、3年間をとおして身につけたい国語科の学習用語を簡潔に解説し、繰り返し確認できるようにしている。

検討の観点	内容の特色
● 情報の扱い方 「思考の方法」 資料編	● 各学年の第6単元に、「情報を関係づける」として、「情報の扱い方」に特化した単元を設け、グラフや図表などの情報と文章による情報とを関連づけながら自分の考えを深める学習ができるようにしている。さらに、情報を関連づけて考えたことをもとに、効果的に情報を発信する学習へとつなげることでできるように、教材配列を工夫している。 ● 1年では「防災」をテーマに、災害に対する備えの面での課題と、心理面の課題とを考え合わせて、必要な情報を整理してリーフレットを作る学習を設定している。 ● 2年では「共生社会」をテーマに、社会的な状況に関する情報と、「自立」についての考え方を関連づけて、考えたことを投稿文にまとめる学習を設定している。 ● 3年では「メディアリテラシー」をテーマに、情報に対する見方・考え方を深め、情報の信頼性を確かめる学習をもとに、自分の考えをポスターにまとめて発信する学習を設定している。 ● 全学年にわたり、各教材の学習過程にそって「思考の方法」を位置づけている。「順序立てる」「比較する」「分類する」「関連づける」など、情報と情報との関係を捉え、考えを整理したり深めたりする基本的な方法を、図解を用いてわかりやすく示し、国語科の学習のみならず他教科の学習や日常生活・社会生活に活用できる力を身につけられるようにしている。 ● 各学年に「情報探しの方法」「引用と著作権」を設け、情報の収集の仕方や情報を活用する際の整理の仕方などをわかりやすく示すことで、話や文章の中で適切に表現することにつながる情報リテラシーを高められるようにしている。
● 我が国の言語文化 読書 伝統的な言語文化	● 歴史の中で継承されてきた文化としての言語についての理解を深めるとともに、自らの言語生活を見つめ、豊かにしようとする態度を養うことができる教材を豊富に配列している。 ● 各学年の「私の読書体験」では、作家が自身の読書に関する体験を語ることで、読書の意義を理解し、自然と読書への興味・関心が高められるようにしている。 ● 「読むこと」教材の末尾には、「私の本棚」として、教材文と同じ作者の本や、テーマに関連のある本など、教材との関連性を明示しつつ、多様な観点から豊富に図書を紹介している。 ● 「読書の広場」の「小さな図書館」には、「生き方」「心」「言葉」「自然科学」「平和」「文化」というテーマを設け、各学年47冊の図書を紹介している。 ● 「読書の広場」には、各学年5本の多様なジャンルの読書教材を掲載し、主体的に読書に親しむとともに、「読み方を学ぼう」で身につけた方略を活用できるようにしている。 ● 短歌・俳句や物語・随筆・紀行文、漢詩・漢文など、先人の遺産としての言語作品を多く取り上げ、それらが現代の私たちの生活の中にも生きていると感じ取ることができるよう工夫して教材化している。 ● 1年「竹取物語」は、現代語を交えて作品の全体像をつかみ、文学作品として味わえるようにしている。 ● 2年「平家物語」（「敦盛の最期」）は、「読み方を学ぼう⑥ 物語の転換点」を配置し、文学作品としてのダイナミックな展開を捉えることができるようにしている。 ● 3年「おくのほそ道」は、「読み方を学ぼう⑤ 状況・背景」を配置し、作品が書かれた時代背景や作者の履歴などをふまえて、古典の読解の質を高められるようにしている。 ● 各学年の古典教材には、色鮮やかな折込ページを配し、古典への興味とさらなる学習意欲を喚起するとともに、作品の全体像を捉えられるよう工夫している。 ● 「読書の広場」には、「古事記」「那須与一」「近世の短詩」という多様な作品を採録し、資料編には、「落語の世界」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」などの伝統芸能の世界に親しむ資料を豊富に掲載している。 ● 資料編「日本文学名作集」では、年表とあわせて文章の一部が掲載されており、文学史の知識にとどまらず、声に出して読んだり、暗唱したりできるようにしている。

検討の観点	内容の特色
観点5 使用上の配慮	
① 特別支援教育についての配慮・工夫	● 特別支援教育の専門家による校閲を受け、全ての生徒にとって学びやすいよう、学習の要点がひとめでわかるレイアウト、読みやすい文体や改行などの工夫をしている。 ● 学習に取り組みやすくするため、教材の冒頭に目標を明示して見通しがもてるようにしている。さらに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、「学習の流れ」を先に示すことで、学習活動の全体と順序を意識できるようにしている。 ● 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材や「読むこと」教材の「学びの道しるべ」では、学習活動の手順を丁寧に示し、学習手順を上段に、「学習のポイント」や「思考の方法」「語彙を豊かに」を下段に示すなど、わかりやすく情報が整理され、スムーズな学習指導に資するレイアウトとなっている。 ● 見開きによる情報のまとまりを重視し、学習に必要な内容が次のページにまたがらないよう工夫している。 ● 情報のまとまりを線で囲んだり太字にしたり、重要な情報を大きく示したり、図版と図版の間を空けたりすることで、見やすく、わかりやすくしている。 ● 「読み方を学ぼう」「思考の方法」では、文章での解説は簡潔に示し、わかりやすい図解を用いることで、内容を視覚的に捉えられるよう工夫している。
② カラーユニバーサルデザインについての配慮・工夫	● カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲を受け、全ての生徒にとって見やすく、学びやすい配色となっている。 ● 色による区別に加えて、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けている。 ● 色の濃淡や罫線の使い分けなどの工夫を凝らし、情報を整理しやすくしている。
③ 文章表現・用語・記号・図解など	● 生徒が意欲をもって学習を進められるよう、わかりやすく読みやすい用語・表現を用いている。 ● 図解を適切に配置し、学習内容や方法が具体的にわかるよう工夫している。
④ 書体・文字の大きさ・字間・行間など	● 読みやすさ、学びやすさを追求して開発した、独自の明朝体・ゴシック体・教科書体を使用している。画数や点画の方向等において誤解が生じないよう配慮している。 ● 漢字の学習や書き写すことの多い韻文・古典教材の本文では、手書き文字に近い書体である教科書体を用いている。 ● 文字の大きさや書体を適宜使い分け、情報が整理しやすく、学習しやすいよう工夫している。 ● 字間・行間は、生徒の発達段階や可読性に配慮し、読みやすく学びやすいレイアウトとなっている。
⑤ 挿絵・図版・写真など	● 挿絵・図版を適所に配置して、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えている。 ● 表紙は、明るくさわやかな印象で、親しみやすいものとなっている。 ● 学習をサポートする役割をもったキャラクターを用い、知識・技能の理解や習得をスムーズに行えるよう工夫している。キャラクターの男女バランスにも配慮している。
⑥ 印刷・装丁・造本など	● 文字・図版・写真などの印刷が、鮮明でわかりやすくなっている。 ● 薄くて軽く丈夫な用紙を開発し、持ち運びの負担を軽減している。また、目が疲れにくい白色度の用紙を使用している。 ● 製本は堅牢であり、十分な耐久性を備えている。また、ページの開きがよく、読みやすい製本方式を用いている。 ● 表紙は表面加工を施し、耐久性を高め、手になじみやすくしている。 ● 環境にやさしい用紙と植物油インキを使用している。